

序

「環境」問題は、今、人類における最大の課題の一つです。「環境」は今を生きる私たち、次世代の子どもたち、そして地球に生きるすべての生物との共有財産です。ところが、長きにわたり人間社会を優先して破壊や汚染をくり返したつげが、今や大きな変化をもたらし、人類に影響を与えはじめ、環境問題として明るみに出てきて人々はようやく危機感を抱くようになりました。

近年は豪雨や地震、酷暑に台風、地すべりなど、様々な自然災害が日本列島を襲っています。「観測史上初」という言葉を何度も耳にしています。大きな災害のたびに不正確な情報が伝わってしまうことが問題となっており、多くの情報を手軽に得られる今だからこそ、信頼できるデータが、また、読み取る・考察することが必要です。このようなとき、教材はじめデータの宝庫としての『環境年表』が役に立つと信じております。

本書は、長年蓄積されてきた膨大な情報から、地球全体、局所的地域、生活環境などに関する正確な科学データを取りまとめ、「環境」を一冊に凝縮したものです。ここに掲載した情報が広く社会に提供され、新たな視点での私たちの知的財産となり、広く活用されるものと考えます。本書では地球温暖化、酸性雨、生物多様性、IPCC 報告や福島における原発問題に端を発したエネルギー問題、熱中症や感染症など、関心の高い話題を数多く取り上げています。

従来の子どもの健康と環境の関係、日本の火山噴火やバイオームに関する項目を引き続き継続しながら、今回はさらなる要素の充実を目指して、「光害と自然環境への影響」の新設、「世界のおもな畜産物」データの更新や「ブルーカーボンとその隔離プロセス」「海洋のプラスチックごみ」など環境に関する重要な新規トピックを追加しています。また、教育現場でより使いやすくするため、紙面のレイアウトを変更したり、web の情報を活用しやすくなるような内容を追加しています。加えて、高校や大学の授業でそのまま使える教材「ワークシート」を特設サイトにて公開しています。

『理科年表』同様、重要な文献としてあらゆる「環境」を総合的にまとめたこの『環境年表』が多くの教育現場での教材となり、また、企業や官公庁などにおいてもこれらのデータが有効に活用されて、一人でも多くの方が環境問題について考えるための大切な基礎データ集となることを願っています。

今日ほど人類にとって環境問題が取り上げられた時代はありません。それほどに人類にとって、環境問題を考えることなしには、将来の持続的な発展を望めないという限界にきているともいえます。『環境年表』は確かなエビデンスをもとにまとめており、最も重要な資料であるといえます。

『環境年表』に記載された個々の科学データやその年次変化の奥には、人類の営みもたらす産業経済活動、国際関係、南北問題、今後の経済的戦略など現代社会にかかわる重要なテーマが埋め込まれています。この意味で本書はわが国の将来を語るための貴重なデータブックとなるでしょう。ぜひ、多くの方々の手元においていただき、参考にしていただければと思っています。

2018 年10 月

編集代表 東京大学名誉教授 浅島 誠
国立天文台 台長 常田 佐久